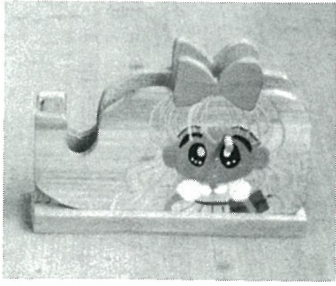


『テープカッター』



6年

鶉ノ澤優子さん

※くふうした所は、形を丸っぽくした所です。難しかった所は、形をとる時と色ぬりでした。



白馬
実川美保



4年

実川 美保さん

※字を、大きく太く生き生きさせているような感じがだせるように、注意して書きました。



童話
富永真理子

5年

富永真理子さん

※『童』は、横画の長短・間かくに注意し、『話』は、左右のつり合いに気をつけて書きました。



『おもほり』

1年

実川 聖子さん

※きょうだい学年で、さつまいもほりをしました。赤いおもほりや白いおもほりが、たくさんほれました。



ひかり俳壇

音符なきせ、らぎの韻水温む

鈴木 都根 (橋場)

小川に奏でる大自然の撰理、春の調べ。作者の感性は鋭い。

せ、らぎに稚魚の動きて川温む

土屋 好(虫生)

風はまだ冷い。しかしぬくもり始めた川底には魚影が走る。

山裾の段々畑も春めきぬ

鈴木とし子 (宝米)

天地風物に春の動きが見えて静かな農村も俄に活気づく。

さざ波に光りを載せて沼温む

伊藤 定男 (尾垂五区)

光りをちりばめた水面に春の訪れを見た擬人法作品。

雨露宿りこぞり光れる雑木の芽

伊藤 幸枝 (尾垂六区)

上五は説明的。『雨霽れて』としたい。季語に留意のこと。

「短評」 椎名しげる